京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年（紀元二千五百七十一年）
本紙定價　一枚金三錢▲一ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金五圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久勝一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話六大三番振替口座京城四五大番
仁川支局　仁川本町三丁目電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

史譚



臨終の奈破翁

山水道人

（本稿は舊稿にして二度の勤め也。曾々匡庭に得て之を見るに當價の英傑の臨終は。更に新たなる一種の感興を深からしむ。即ち更に筆を加へて茲に掲ぐと云爾。）

第一回

蓋世の英雄ーナポレオンの名!! 恐らくは。深山の樵夫。磯邊の漁夫輩に到る少女や。稚兒はらゑみの時にだも。思ひ出でては打ち背くてとならむ「コルシカ島の少年」と聞きて。直ちにナポレオンの鐵笛を。聯想せざる者能く幾人ぞ。

期年にして將と爲り。累ねて王と爲り帝と爲り。一たび命ずれば南歐朝し二たび命ずれば北歐震ひ、全歐の民風に靡いて麾下三軍一麾に動く。人として見る。偉人也。神として呼ぶ。軍神乎。あゝ彼が武威と其英名。げにや竹帛青史に塗れて。燦然千古に輝かむ。うも是豪傑將た傑乎。這個曠世の英雄!!

さらばよ!!。あまりに若く讃へられあまりに早く凋落しけむナポレオンが生の華々しさ。雄々しさ勇ましさ。悲しさ傷ましさ。さては寂しさ冷かさ。げにも陽炎燃ゆる野の晨に、一年の裝ひ美はしく。匂ひ出でけむ春の花の。夕の雨に散り布きて、泥に委しぬる狀にも似たれ。

さわれ。鐵鞭一揮。太古の雪を踏破り。アルプス山頭駒を立てゝは。遙かに南歐の平原を。低回顧望して獨り自ら。頰に微笑をや湛らけむ。想ひ起す當年マレンゴウの戰ひに。右手長劍風を斷つて、左手一たび麾げば、軍額煌たる天に轟き。馬前恰も人無き如く。將た彼のアウステルリッツに。鞍上の彼一聲呼べば。三軍殺倒野を蔽ふて。敵は爲めに膽を寒め。更らにブルボン王朝の。その帝位を襲ふては。かのエルフルトの會見に。四王三十四侯伯の肝膽をして寒からしめけむ。彼ボナパルト、ナポレオン第一世皇帝も。モスクオウの夜の雪深ゝ。吹く風うぞろ身に泌みて。酣夢一度破れしより。王座奪はれ。鐵冠奪はれ。金殺の彩も剝ぎ取られ。榮華徒らに地に墜ちて。昨日に變る零丁の身の。枯槁の骨。敗殘の生。その淪落の運命は。遂に窮まり漸く衰ろへ。復た挽回の余勢無く。あはれ一場の悲哀なる。運命劇を書き遺して。永遠の暗にと隱れ逝きしぞ。若き男子の涙なる。げにや彼ナポレオンは。帝王としての成功と。その榮華とを讃へよより。寧ろ風雲を望んで撥亂反正の劇壇に活きたる青年の。好典型とこそ謂ふ可けれ。

更に直下に之を見る。彼は實に宗教と平和との敵なりけり。生ける戰の神なりけり。燃ゐつる戀の火なりけり。更に生きたる時なりけり。

遠莫。光明あり。闇黑あり。榮華あり。淪落あり。歡樂あり。失意あり。追害あり。努力あり。失戀あり。美人あり。妖婦あり。愛あり。忠あり。義あり。紅血あり。熱涙あり。あらゆる事件に飾られて。飽く迄華かなりし彼が生涯を尋ぬるに。そのバターを追れし以後は。失意無冠の王者として見られむより。寧ろ失戀の天才として歌はれむてう。切なる彼の意にや叶はむ。

人生命運、榮衰の。その極度より極度に飛んで。有爲天變の數奇の生は。げに天才の常なるも。是れはまた。あまりに英雄のその末路を。悲慘ならしめけるものかな。

さらばよし。心は銷びて櫻は去りて寶刀塗に朽ち折れつ。散るや落花の春逝いて。野に遺されし蝶々の。儚なき亡骸傷ますも。世の人いかで彼ナポレオンが葬らむ。

人よ徒らに。虛榮の名のみに醉ふ勿れ。など。彼が得意時代の夫れにのみ男の子の血をば波立つる。惆悵悲慘の末路に向つて。誰か丈夫の意氣にせかるゝ。熱き涙を灑がむ者ぞ!。

外事一束

▲墺國●首相ビエンチルト氏辭職しガウシ男之に代り他の閣員は居据たり。
▲佛國●新內閣に對し獨逸の諸新聞紙は頗る冷靜なる評論を加へつゝあり。
▲平和●維持の目的を以て土耳古政府はアルバニア一種族に更に讓步せり。
▲倫敦●の日本人會は東伏見宮兩殿下を正賓とし東鄉乃木兩大將島村中將。
▲鞍馬●利根の士官日本大使館員等無慮八百餘名盛大の園遊會を開催す。
▲殺戮●阿剌比亞エーメンの叛徒は土軍の前衞を襲擊し二千餘名を殺戮す。
▲協約●米國政府は六月二十八日遠洋膃肭獸漁獲協約の締結せられし趣宣言。
▲米加●互惠條約は討論今に盡さず爲に未だ通過せず尙二週間を要せんと。
▲獨逸●飛行家ヒルトは四百キロ米突の距離を僅か四時間に飛行したりと。
▲債價●倫敦株式市場にては日露兩國の公債相應に景氣を有しつゝありと。
▲爆彈●西班牙國首都にて羅馬敎謝恩大會に關聯し僧侶及び普通人を合せ。
▲五萬●人余王宮に向い行列進行途中爆裂彈市長の間近にて爆發したれば。
▲群衆●の狼狽一方ならず約六十名の負傷者ありしも行列は中止せずして。
▲王宮●に進み皇族之を引見せしが政府は此椿事を二十四時間秘密に附す。



?（一）

東西南北人

イエ何んですつて、我儘ですつて、我儘なら我儘でもいゝことよ、自分の權利のあるところ自由のあるところ、何もあなたから、ツツ制肘されたり束縛せられたりする義務は少しもないことよ。

莫迦ですつて?……莫迦なら莫迦でもいゝことよ、ドーセ私は嘩左衞門、然し乎、これでも杢左衞門や土左衞門とは少し懸隔があるんですから乎、ツウ〳〵た安く一概に評價されては頗る迷惑することよ。

これでも明治の自覺したる女子ですから乎、自分の主義のあるところ權利のあるところ主張のあるところに泣かては例令親であらうとも良人であらうとも一步も假借するところはないことよ。

着物一ッ裁つことも、ご飯の水加減一つ滿足に出來ないくせに、よく喋るつて……マアあなたも隨分ヒドイことを云ふ人ネ、何ぼなんだつて私は主婦自身で裁縫しなけりやならなかつたり炊爨の世話までしなけりやならなかつたりする程、しかくプーアな果敢ない女ぢやないことよ、よし假りに數步を讓つて、裁縫も割烹も滿足に出來ないとしたところが、それが必ずしも女子たるものゝ尊嚴をきづつくる可く何等の痛痒も感じないことよ、裁縫や割烹が必ずしも女子そのものゝ全部ぢやないと云ふことは貴郞が既に、私に結婚を申込む以前に於てよくお仰つたぢやありませんか、其舌未だ乾かざるにそんなことをお仰つて、貴郞も隨分自家撞着の甚だしい方ですことチ。



召使お初

第九十四回

黒法師

「さて〳〵お立派御口上でござりまするな、流石國尾どののお召使から、一足飛びに中年寄へ御出世遊ばすほどのお方、お詞に花がござりまするな」と澤野は例の意地惡く「然し、關係ない者から、お名宛のお手紙參る筈でござりませぬ」

「什麼樣仰せでござりましても、これぱかりは覺ねござりませぬ」とお道は同じ事を繰返して「恐れながら御前樣を偽る事いたしませぬ、恐れながら生れて以前、偽言いふた事ござりませぬ」

「これほどに申し上げても、まだ有體に仰せなされぬ、是非ない事、さらばこれにて彼の文を讀み上げるでござります」と澤野はそれにある相生に目を注けて「殿樣の一通を讀みなされませ」

相生は澤野の股肱なりき、澤野申しの事と云へば、是が非にても否やを云ひたる事なき中年寄なりき、心得てずツと出る、澤野の手よりは例の一通をされき

「一文して申し上げ參らせ候、時候から御障りもあらせられず、無事御つとめ殊には皆樣御用ひ淺からず、追々御出世遊ばされ候よし、かづ〳〵お芽出度存じ參らせ候さて我身事、先もうじ御目通りの時、くれ〳〵申上げ候如く、この心いつまで經ちても變りはあるまじく、異心をもちてそもじさま御年期の明け候を樂みにして相待ち居り申候、我身心中は只今改めて申上げずともよく〳〵御存じとは承知致し候へど、霞を隔ちては花の姿一きわ戀しく、雨につけ風につけ、安穩を祈り候も男の誠と御笑ひ下されまじく候、御年期は長く三年五年と相成候も、我身心變りなく御待ち申上げ候に故障御座なく候へど、近頃人の噂致し候を承はれば、そもじ樣御機嫌樣御目に止らせ、やがてお中臈に召し出されたまふやに聞き及び參らせ候、そもじ樣に限り、さき〴〵約束を反古になされ候事は、隅田川の水逆に流れ候時あるとも、けして〳〵之れあるまじとは存じ候へども、主命もだし難く、萬々一お手付かれ候事にてもあらば、我身七生まで生れ變りて、そもじ樣を御恨み申上げ參らせ候、そもじ樣を御恨み申し上げ候ばかりにてはおはしまさず、恐れながら、殿樣御心をも恨み參らす事あるべくと、今よりそれを悲しみ參らせ候兎角はそもじ樣たゞ心の持ちやう一つにて、我身心を鬼とも佛ともなされ候儀に候へばかねての約束反古になされまじく、たとへ百千里を隔ち候とも、五七年を別れ候とも、一たんの誓ひ御忘れなく、御勤めのひま〳〵には、我身事思ひ出させ少しはあはれとも思召しあらせ候やう神かけ念じ上げ參らせ候まだ申し上げたき事山々おはし候へど取り急ぎ心の裏のみ打ち開け參らせ候、芽出度くかしこ」



相生は大音聲に讀み上げぬ、お道は空顔きたるまゝなり、一座の女中どもは、聞くまじき事を聞きたるやうに、齊しく顏見合せぬ

「どうでござりまするな」と澤野は得意顏に膝を進めて「これでも知らぬと仰せございまするか、斯様な殿樣を何ぞ云ひなされませぬか、あなたお心に御存じないものがこのやうの媚いた文送り參ると思召しござりまするか、もう堪ひませぬ、相手は海老屋儀右衞門、これまでお上の掟を破らせて、不義の罪犯しなされたでござりませうがな」

「澤野さま〳〵」とお察は堪りかねて「旦那樣に限り不義な事などある筈はござりませぬ、そのお文の文言、心得ぬ事の數々、察にお見せ下さりませ、篤と實否を糺し參るでござります」

とお察は假鐵頭を擡げぬ、奥方は脇息に身を凭せて、此場の様をつく〴〵と見てゐはしぬ

京城新報

横範市街を造れ
南大門外を京城の銀座とすべし

南大門外即ち御成町一帶の地區は、京城市の入口に位し、殊に乘車の客の充斥を見る南大門停車場を控へ、人車の往來絡繹として絶へざるに加へて、電車及び貨物を運搬せる牛馬車の通行最も頻繁を極むるも、道路は[illegible]之を以て通行者は[illegible]危險實に[illegible]然るに[illegible]玄關口の[illegible]不整頓にして亂雜なる[illegible]を想像せしむるに足る。[illegible]吾人は之を聞く度毎穴にも入りたき心地に禁ずる能はざりしが、幸ひ總督府にも茲に見る所あり、此地區の入口を飾る道路の取擴げをなし京城の入口を飾ると決し、過日來用地買收に就て[illegible]、此程漸く解決を告げ、[illegible]家屋全部を取拂はしめ[illegible]より地均し工事に着手し、十[illegible]なりと。[illegible]市民も、之[illegible]を呈することとなる可[illegible]取擴げ之に伴ふ[illegible]京城の玄關を整頓せ[illegible]の執らざる所也、此と同時に、京城府[illegible]永遠に亘りて中央[illegible]づくる所なる市街を[illegible]誤せざる可からず。[illegible]を維持するの道は[illegible]ずんばあらず、南[illegible]して面目を改めん[illegible]屋にして、粗造濫[illegible]きて晴を點せざ[illegible]部の完成せるもの[illegible]人目を蔽ふに足る[illegible]具あるが爲め人を[illegible]を起さしむると其[illegible]し、故を以て、吾[illegible]南大門外擴張道路[illegible]ち家屋に對して、[illegible]つに足るべきもの[illegible]の制限を附せんと[illegible]自己の利害にのみと[illegible]紛糾する虞、或は是に對して非難の聲を放つこと無きを保せず、然れども道[illegible]を要せず、宏壯なる[illegible]地區必らず有力なる[illegible]業自然に其處に集中[illegible]都市の現狀は、終に[illegible]解くや益し明かなり。[illegible]の地主家主は概して[illegible]あるがために痛苦を[illegible]なく、殊に家屋の新[illegible]る金融機關の設けあ[illegible]人の進言之を要する[illegible]街衢に石造若くは煉瓦[illegible]耐火の家屋を建設せ[illegible]屋造を形成し範を他[illegible]り、當局者にして京[illegible]觀せず、徒らに事功[illegible]年の悔を茲に萌すも[illegible]言して憚らざる也。[illegible]亦然り、目前の利害[illegible]の利益を期し以て自[illegible]るの計を樹つるは今[illegible]めざる可けんや。

東京電報（四日發）

▲**地方長官の交迭**　阪本鹿兒島縣知事は今回名古屋市長に就職したるを以て本日左の如く地方長官に更迭ありたり

長野縣知事　正四位勳三等　大山綱昌
任岡山縣知事叙高等官一等
大分縣知事　正四位勳三等　千葉貞幹
任長野縣知事叙高等官一等
岡山縣知事　從四位勳四等　谷口留五郎
任鹿兒島縣知事叙高等官二等
東京府事務官　從五位勳五等　昌谷彰
任大分縣知事叙高等官二等
鹿兒島縣知事　阪本彭之助
依願免本官

▲**電車市有と外債**　東京市は電車市有の爲め九千萬圓乃至一億圓の外債を募集する事に決定せり

▲**李王幼年校入學**　李王世子殿下には今回學習院中學科を御卒業相成りたるが愈々來る九月を以て陸軍中央幼年學校に御入學の事に決定したり

▲**維新史料編纂會**　維新史料編纂會にて牧野男澁澤男の加入を求め牧野男を委員長に推さんとせしも男は之を謝絶したり他に撰任中なり

▲**判任官寄附割當**　財團濟生會にては今回判任官にも寄附金を割當つる事に決定したり

雜報

●**總督の訓示**　寺内總督には五日午後より目下開會中なる憲兵隊長會議に臨席の上一場の訓示を爲せり

●**道長官會議**　五日の道長官會議は司法部臨時土地調査局、臨時測量部の各所管に屬する會議を爲す正午散會したり

●**地方治道費額**　本年地方土木費客月二十日内務部調査總額六十五萬八千三百六十五圓にして同補助費六萬七千六百四十一圓なるが其の多くは既に發布されたる道路規則による治道費及橋梁費に充てる方針なりと

●**治道費道別**（金額）　別項地方治道費額の道別金額左の如し

道	土木費	同補助
京畿道	八八、五〇四圓	一一、五一五
忠清北道	四四、五二四	六、一九一
忠清南道	三八、六八四	二、六〇〇
全羅北道	六九、二一三	五、〇一〇
全羅南道	五三、八四〇	三、〇〇〇
慶尙北道	三二、七七五	六、六〇〇
慶尙南道	六七、三三六	一一、四九一
黃海道	九八、一九五	一二、〇〇〇
江原道	七、九三二	〇
平安南道	二五八、一九七	四、〇〇〇
平安北道	二八、二三八	〇
咸鏡南道	一四、七八七	四、四四四
咸鏡北道	二、五〇〇	八〇〇
計	六五八、三六五	六七、六四一
合計	七二六、〇〇六	

●**鑛業法と空權**　現行朝鮮鑛業法によれば鑛業權者は自己の名義に因つて得たる各礦山の採掘事業を名義人自身に於て經營すべく規定され居る次第なるが、最近の調査によれば邦人及外人中自己名義の礦山をば他人に採掘せしめ自身は手を懷にして單に賃貸歩割を收め俗に云ふ空權家の行爲に出づるもの多きを以て其筋にては近々此等礦業權者に直營を命じ若し實行せざる場合に於ては礦業法違反として礦業權沒收の處分に出づべしと云ふ

●**韓銀總會**（決定）　韓國銀行第四回定時株主總會は來る八月十五日東京銀行倶樂部樓上に開會する事に決定したり市原總裁は總會出席の爲め來月上旬理事を隨へ東上すべしと

●**郵便貯金趨勢**（承前）　在鮮内地人の郵便貯金狀態は右の如く預人の密度に於ても將又預入金額に於ても帝國郵便貯金全体の平均率に比し遙に優等なりと雖も之を帝國殖民地及各縣の貯金狀況に比較せんに朝鮮以外に屬する四十三年度を得能はさるにより朝鮮の分も四十二年度の計數に就き之を比較するに預け人一人平均預金は佐賀縣及山梨縣の六圓弱沖繩縣の五圓弱に比し多少優等なるが如しと雖も朝鮮人貯金中に純十三道各地に散在する金融組合の貯金を包含するを以て之れを控除するときは恐らくは一人平均三圓を超ゆざるべし然れども假りに右數字の如く朝鮮人の一人平均六圓なりとするも臺灣土人の一人平均額十三圓に比するときは未だ其の半にだも達せず又預け人の密度に於ても朝鮮人は約六百五十人に付一人に付一人なるに比すれば未だ其の六分の一にだも足らず更に朝鮮人郵便貯金の預け人なるを以て臺灣土人の約百人に付一人なるに比すれば[illegible]の一にだも足らず更に朝鮮人郵便貯金[illegible]かに金九厘にして從來帝國中預金歩合を全人口に對し平均するときは一人僅

を比較するに預け人一人平均預金は在朝鮮内地人二十五圓強にして徳島縣の二十四圓強臺灣の二十四圓強樺太の二十四圓強に比し僅かに多額なるを見るも北京、天津、上海等清國在留邦人の四十二圓なるに比するときは遙かに其の下位に在り然れども清國在留邦人は中等以上の生活を爲す者多く居るを以て假りに之を圏外のものとするも滿州の三十五圓強に比するときは遙かに遜色あるを認めざるを得ざるなり

朝鮮人に至りては預け人の密度に於て將又總金額に於ても帝國の郵便貯金全体の平數率に比し遙に劣等なるのみならず前顯同樣の理由に依り四十二年度末の計數就き帝國殖民地及各縣の狀の最少なりし臺灣土人の一人平均金十三錢に比し更に其の十三分の一たり以て如何に朝鮮人貯金程度の低きかを知るべきなり（完）

●**百三十銀行上半期成績**　菅原總支配人談……百三十銀行京城總支店に於ける上半期純益金二萬六千餘圓にして之れを前期二万四千餘圓に比較せば二千餘圓即ち八分の増加を示せり尚は久しく持續したる不活潑なりし一般金融界は今春來頗に活氣を呈し日に月に繁忙を極めつゝあれば當期よりも寧ろ後期の成績こそ見るべきものあるべし而して當期における金融狀況を示さんに金銀出納高中入金二千二百八十二萬六千餘圓にして出金二千二百八十三萬一千餘圓預金百八万一千餘圓貸金百三十八萬八千餘圓なるが之れを前期各決算額に比すれば金銀出納高入金に於いて三百四十三萬八千餘圓の増加を示し預金に於て三百四十七百七千餘圓を貸出金に於て二十六萬二千八百餘圓の増加を見たり之れ併合紀念恩賜公債の對買今春來盛んに行はれたると内地人の土地購買者各地に入り込み放資したるが其の他一般經濟界の頓鬪に進捗しつゝある結果なるべしと云々

●**憲兵隊長會議**　前日に引續き五日午前中は事務打合午後より各管内情況報告最後に總督の訓示ある筈なるが同會期は本月七日迄延長したりと

●**下岡局長の旅程**　目下滯京中なる下岡農務局長及農事試驗場技師安藤廣太郎氏の一行は當地に三日間滯在の筈にて五日は纛島園藝模範場及工業傳習所秘苑等を視察したり當地視察の上は更に平壤義州等を經て滿州北京上海の各地方へ向ふべしとの事なり

●**下岡局長の歡迎會**　農商工部農務課及鑛務課員等約二十餘名は四日午後八時より下岡局長を翠雲樓に招待し盛宴を張れり

●**東拓拂込締切**　東洋拓殖會社の第二回株金拂込は五日を以て期日滿了したるが其の拂込成績は七日頃ならでは正確に知るを得ざるも朝鮮各銀行の取扱に係るものは何れも遲滯なく拂込を了したる由なれば内地の分も無論好成績なるべし

●**京城民會の決議**　四日の京城民會に於ては小學校新築問題に付き討議する所ありこれに對する民團起債は委員會の修正案通り十三萬九千四百圓全會一致を以て可決したり

群山通信（七月一日）

△群山日報廢刊（少しく語弊あれど）後の群山は全く暗黑世界に變し吾人は盲人の杖を失ひしと同じく全く社會の出來事に對しては寸歩も自ら致す能はざる狀態に陷り候處京城日報と大田の三南新報とは鬼の留守に洗濯でも申すべきか機投すべしとなし相前後して當港に支局を設置し大々的に宣言を發表して目下孰れも熱心に其勢力の扶殖に忙しく而して未だ遽かに其優劣を判し難きも其競爭の激甚なるは大に世人の耳目を聳動せしめ申候こゝに不思議なるは右兩局の主任とも即ち京日の龍門三南の湖村共に群山日報廢刊當時迄同社にありし人なるかを思へば其コントラストが如何にも面白！吾人は今兩氏の技倆手腕を論評することは暫らく後日に讓り茲には只兩支局の内最も善く群山の利害に一致して之を指導し最も能く群山の事情を網羅して群山を紹介するもの即ち勝を制せんとのみに言を止め後日の結果を見物可仕候

△本年は春來五風十雨氣候適順の結果當地方の生命たる稻作も何の支障なく早や全部植付を了し今日迄の經過は先つ豐作疑なしとの豫想なれば都部の別

一層の活氣あるを認めらるゝ中に候も鮮人は此等の現象は併合か全く天意に合し我聖文武なる天皇陛下の御稜威により然るものと衷心より感謝せるものも有之、之は朝鮮統治上に於て喜ぶべき一新徴候と存せられ候

△從來群山米の相場は主として内地阪神相場の高低に伴ひて支配せられ而して又其需要地も亦殆んど狹小なる日本に限られたるかの觀有之候處時勢の變遷に連れ昨年よりは歐米は申すに及ばず北清地方及大連方面に於て俄然群山米の需要を惹起し就中本年に入り浦潮方面に於ける多大なる米の需要は其輸出關係を一變して一躍世界的となり隨て其相場の如きも幾分阪神相場の變動により左右せらるゝの境涯を脱するに至りたるは群山米にとり何よりの好都合に有之候現に目下阪神の相場は當港相場（諸掛費を加へて比較すれば）に比し五十錢方下位にあるも當港相場は依然高値を持し（多少産地品底の關係もあれど）同地との取引は不引合を唱へつゝ移出振はさるにも拘はらす大連其他の方面より續々注文絶えさるを見ても明なる事實に有之候

△同時に又朝鮮國内に於ても湖南線及京元線鐵道竣功の曉に來らば群山米需要の區域も從來より一層擴張せられ其取引狀態に一大變動を來すや明なれば當業者たるものは今後の狀勢に注目し所謂活眼を開き以て之に處するの用意を怠る可らさる儀と存候（笑面生）

●**公債金の貸上**　朝鮮事業公債を以て支辨すべき各方面の工事は目下着々進行中なれば之れに要する公債資金は當然使用せらるべき筈なりと雖も總督府は昨四十三年度の終りに於て財政計畫の都合上韓國銀行より二百九十萬圓の借入をなしたるにより此金を流用し工事を進め居りしも最早使用し盡さんとせる故來月に於ては韓銀にては約二百万圓の貸上をなすに至るべしと

●**通運新事業**　内國通運株式會社にては今回鴨緑江流域に於ける貿易及同濟業に從事する事に決し資本は當分二十五萬圓を投じ事務所を新義州に置き近々より着手する由

●**慶南の麥作**　慶尙南道晉州地方の麥作は洛東江沿岸を除けば豐作にして一反歩より二石乃至三石餘の收獲あり平年に比し約五斗内外の增收なれば春來穀物類缺乏の爲め菜色ある細民は咀嚼に活氣付きたり

●**朝鮮國寶大觀**　當地本町日韓書房より發行せらる菊判二倍の大形本裝釘頗る壯美を極め而して本書は朝鮮古美術を世に紹介するを目的とせるものなるを以て當第一輯には元宮内府博物館に蒐集せられたる美術品中最も優秀なる五十余種を撮影し之を精巧緻密なる寫眞版に附し一々說明を添え加ふるに用紙の良好印刷の鮮明なるは一層本書の價値を高め實に朝鮮出版界に一新紀錄を作りしものと云ふべし（定價三圓五十錢）

●**李王德壽宮御成**　李王同妃兩殿下には五日午前九時昌德宮御出門墨中嗣安の爲め德壽宮に成らせられ李太王同妃殿下と共に午餐を共にせられ午後二時順路昌德宮に還られたり

●**市原邸の晩餐會**　市原韓銀總裁は四日午後七時より明石司令官、山形中佐を始め各道憲兵隊長を自邸に招待し晩餐の饗應ありたるが尙は來る八日午後七時より荒井度支部長官宇佐美内務部長官以下各道長官を自邸に招待し晩餐會を開く筈

●●●**横山男爵一行の出發**　滯京中なりし石川縣の横山男爵、川崎事務官、山崎醫學博士の一行は五日午後四時南大門出發途中水原を視察し夜行便にて投じて馬山に赴き釜山を經て歸任すべしと

●**木内長官の寄附**　木内農商工部長官は今五日山口精氏の經營せる京城文庫へ法律、經濟、文學に關する書籍約五百部を寄附したり

●●●●●**京城讀書會組織**　今回西木、前田等の諸氏發起となりて讀書會なるものを組織したるが會費は毎月五十錢にて法律經濟及商工業に關する書籍を購入回覽し回覽濟みの書籍は之を京城文庫に寄附するとの事にて會員目下五十名ありと云ふ

讀む可し讀む可からず

山水道人

▽題して讀む可し讀む可からずと言ふ。譯の判らぬ題號し。
▽書く可し書く可からずと。云つて書くのが小供のイタヅラ書き。
▽押す可し押す可からず。と云ひつゝ押すは相撲の見物人。
▽會ひたし會ひたく無しは勘當した子の親心。
▽吹ゆ可し吹ゆ可からずと。云つても吹ゆるのが野呂間な番犬。
▽爲す可し爲す可からずは。在鮮日本人。
▽死す可し死す可からず。大死一番。須らく再活現成せよ。喝
▽茲に於てか即ち讀む可し讀む可からず』
『常道に居らず。無名に遊はず。名固より欲せず。形固より求めず。時食ふて腹を膨らし疲れて眠る。時あつて迅雷風烈。時あつて寒巖の枯木。兄能く其機を知る。余や夫れ待たん哉。
釜山三聖樓にて北濱漁夫
山水兄
敢て當らず

公人私人

▲下岡忠治（農務局長）四日巴城ホテル
▲安藤廣太郎（農務局技師）同上
▲箱田淳（釜山地方裁判所檢事）同不知火へ
▲森華（衆議員議員）四日平壤行
▲北岡鶴松（日本倉庫會社取締役）四日同上
▲廣瀬直三（春川郡々主事）同佐伯旅館
▲田中遜（華族）四日巴城ホテルへ

仁川港出入船舶

▲木浦丸　六日大阪より入港
▲汕頭丸　同　牛荘より入港
▲隅田川丸　同　長崎より入港
▲漳州丸　同　横濱より入港
▲君ケ代丸　同　大阪へ向出港
▲隅田川丸　同　大連へ向出港
▲漳州丸　同鎭南浦横濱へ向出港

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
七月五日	一〇一、三四三、四九〇	三八四

▲治外法權▼

目下開會中の道長官會議は、マダ議會の無かつた時代の我地方官會議と同じ樣な物で、理屈から云へば、其討論決議は頗る振はねばならぬ筈だ、トコロが案に相違、長官中には隨分人物もあるようだが、ナゼカ一向に振はぬ▲ト見縊つたは記者の誤り、彼れ長官連は表面こそオトナシケレ、一番大事な警察權問題に付ては、既に既に議を決して、寺内總督へ申言に及んだとの事だ▲アー警察權の問題、幵を長官連がドーニかと云ふのは至極尤の至りだ、何となれば理屈はナテ措き、警察權無しの道長官が仕事を仕ようとしても出來ないのは丁度比丘尼に子が生めないのと同じだからであるのだ▲今度東京の時事新報社が發表した義勇表奬會は頗る我意を得たるものだ、願はくは一般の諸君、一錢半錢たりともを同會に寄附し、同會の成立及事業を扶けらるるようにしたいものだ▲近き將來に於て出來んとする總督府幕僚部の部長に明石少將が擬せられて居るとの事だ、尤も明石の現官は少將だが、ソノ時には中將になるのださうな、是は某消息通の話だ▲外人旅客を目的とする一大ホテルが鐵道局に因つて近々新義州へ造らるるソウだ、ホテルの官營望ましくはないが今の處仕方がない、トコロでドーセの事に京城へも一トツ造つてはドーカ▲本町道路擴張期成會が多數の幹事を推撰して愈仕事に取掛つたのは結構な話だ、過日も云つた如く天は自らを助くる者を助く同會たる者大に自助的に働くこそ可なりだ。

藝妓健康診斷の議と各方面の意見

藝妓に健康診斷を受けさせると云ふ議が傳はつて以來其の側の恐慌と云つたら凄ましいものだ、無理だ人權蹂躙だなぞと憤慨するもの、身に覺へがあるから受けても宜しいけど軍醫さんぢやア堪らないつて新町の娼妓さんですら檢査と云ふと慄へて御座る、まして初めて出會す姿速は恐いと云ふもの樣々である、從つてでげす從つて局外者にして而して深い關係のある容筋の中にも贊否の論がある、此の時に際りて之れを紹介することも豈に無益の業ならんやでしよう

特許辯護士會長 岩本英夫君

辯護士斗り責め立てるぢや無いかね、と其の自宅に訪問したる記者の未だ口を開かざるに異額より浴せかける、之れを受けて記者の「所謂れ喋舌りは御職業ですからな夫れを善用すべく斯くの始末」と云ふを引き取つて「然らば其の術に乘つて善用されよう」と滯き出しながらニコ〳〵宗の倡者で恵比須の從弟然として語るらく、元來此の藝妓と云ふものゝ起原と云ふことに就いては知らぬが隨分古いもので有ると承知する余の聞く所を以てすると藤原氏の全盛時代即ち延喜年間頃を見て可い相だ、此の時分には藝妓とは云はぬで白拍子と云つた夫れで歷史にも徵つて現はれたのは**義經君**の**愛妓靜**さんである今の藝妓のサノサ節を唄ひ得て夙く既に藝妓で御座ると申して居るのから見ると大分に相違があつた如です**歌舞吹彈**の道は云ふに及ばず**文學上**の造詣も又深かつた如である、尤も此の時代以降の白拍子悉くが靜御前の如くあつたとは思はぬが今の如でも無かつたらうと云ふのは兎に角今日迄白拍子即ち藝妓なるものは、未だ曾つて**檢黴**の**異名**健康診斷なるものを施行されたものはない、元來吾國の衛生警察上の見地から行はるゝ健康診斷なるものゝ原則は決して多數の客に接する者には其の身分の如何に拘はらず悉くに施行するにあらずして（特別の場合を除く）花柳病傳播媒合い虞れある者に對してのみ不斷に行はるゝのであります今玆に云ふ藝妓に對する健康診斷は檢黴を主として行はるゝ者とせば余は**絕對**に**反對**の意見を有するものであります、何んとなれば此れは取りも直さず**私娼公許**の弊を醸生する、過日某藝妓曰く「左樣なつたら樂ですワ」と、私娼取締の法規あるにも拘はらず尚は其疑ひ有りとの理由の下に之れを强ゆる以上は少くとも藝妓なるものゝ私娼は公認せねばならぬ斗りで無く夫れを**奬勵**する樣になる、今迄は其制裁を恐れて自制して居た者までも之れを行ふことになる**社會風教上**決して等閑に附すべき問題でありませぬ、又之を**法律上**から見ると既に今日迄の不文法として身體に關しては確乎たる**不可侵權**を保有して藝術を以て營業を持續せる藝妓の今日以後も尚は檢黴を受けずして營業をなし得る既得の權利を侵害するが如きは天下の美德に悖り法律の原則に反するものです、總して規則は規則に羈束せらるゝ者に對して適用さるゝ者であるから**賣春婦**を**律**すべき**法**を**藝妓**に**適用**することは斷じて**違法**であります、斯の如く余は之れに反對すると同時に藝妓に向つても何うか昔時の白拍子同樣までには行かずとも少しく**品性**を**高**めることに注意し輕微の疾患にても自他の攝生上治療すること等に注意せねばならぬ、抱へ主も勿論之れに留意して遺漏なかつたら斯う云ふ問題は霧散するだらうと信ずる

新町廓內の椿事

▽發狂者？四人を傷く

四日午後七時半頃新町遊廓に於て傷害事件の椿事ありたり其顛末を記せんに被害者は新移轉者寶來樓にて娼妓鑑札を受けんと準備中なる宗像さつき（二三）南海樓篠原儀平（二七）及妻みな（五〇）元祿樓內金川豊次郎（十八）の四名にして**加害者**は南部山村洞百三十統五戶朝鮮飲食店李昇鎬方**李昌圭**（二六）なるが同時刻頃加害者は新遊廓地裏手なる山に鮮人四五名と共に**晝寢**し居りたる時しも日本人四五人中には某警部等もありしとかにて散歩に來り突然眠り居る鮮人を起したる爲め加害者は**不意**に**驚**き南海樓裏手**山頂**より**轉び落**つるや否や彼れは狂氣の如くなり**南海樓**に**暴れ込**み篠原儀平及妻みなに打ち掛りしが（兇器不明）被害者は何等防衛を爲す能はずして負傷せしめられしに加害者は恰も荒馬の如くなりて附近の三桝屋新築場に至り見當りたる槌を取り街路に出でしに太平樓裏の道路に被害者なる**寶來樓**娼妓になる可き宗像**さつき**彷徨し居るを見るや槌を振り上げるつきの左頭部其他を毆打しさつきは一時**人事不省**となりし時恰も人殺し〳〵と附近の者が呼び叫ぶを聞付け立出でたる**元祿樓雇人**にして被害者なる豊次郎之を取押へんとせしを又々槌を振上げ左頭部に**重傷**を**負**せし時漸く附近の者多數集り派出所よりは巡查來り加害者を**取押**へたるが此の急報に接したる南部署よりは濱野下村兩警部出張檢視し被害者宗像さつきは新町病院に其他の被害者は自宅にて應急手當を施しさつきは一ヶ月の治療日數を要するも生命には別條なかる可しと因に加害者は發狂者なるや否は目下取調中なりと

來るなら金を隱して

▽果して眞實なるか

何所の家のことやら書いて無ければ不明らされど何うやら新町遊廓の事と丈け朧氣ならに推せらるゝ下の如き投書ありたり原文の儘掲載するが本意なれど夫れにては意の通せざる箇所あるを以て全部平假名なるに漢字を交へて御披露することに一傍に●を附したるは記者の補足せし文字なり

御賴み申上候私一同のものは今迄は取締のれみいねさんが人のねい方ゆゑ小供（妓娼）一同に同情よせて下されたから皆の者樂しき日を送りましたなれども今はういわばみれいりゆが來ましてから客さんが來ますと直に懷中探して五圓でも十圓でもれ持になるだけ費消さぬければ我々を責めます又主人が支店に宿る晩は當ノ事がないから我々や仲居に當ります同じ娼妓でも新規斗り世話して私等は病氣しましても御飯もろく〳〵呉れませぬ奧樣も口先でれいりゆが忠義顔をするに欺されて慾張過た事を云て娼妓が如何樣に難儀しましても見向も致ません（中略）主人の手のつかぬ方が取貰ち事が出來ませんいい白い黑いの話を附けて歸せなくては一號二號でれどり勝にてあがります（中略）支店のれどわは毎日喧嘩致て居りますれ客樣方万一私の家は來らすなられ金を隱して來て下さい書くから居るものは鞍替を企てます行く先がないありましたらば知らして下さい（後略）

●指環泥棒捕はる

四日午後九時二十分頃仁川宮町二丁目商蒲原林次郎妻まつが同町派出所へ出頭只今自分方へ怪しき朝鮮人が純金製の指環を賣らんとて來り居れりとの申出により早速詰合の杉田巡查は同家に出張し右の朝鮮人を取調べたる處右は濟州島東左面演洞の者にして現在仁川沓洞三統一戶孫國一方同居金達圭（二一）と判明し該指環に付ては種々口實を設け事實を吐かざりしより同巡查は該指環を仲町糸岐時計店に持行き鑑定をなさしめたる處該指環は京城の木島時計店の製作にして仁川仲町大和組內川眞田傘太郎の所有ならんとの事なりしかば直ちに大和組に付き問合せたるに右の指環は一ヶ月程前川眞田が入浴の際衣類の袂へ入れ置きしに其際何者かに竊取せられし者と判明し金は尚取調中

●危險千萬な男

原籍東京市淺草區田中町二丁目七番地當時龍山下町三丁目百十番戶居住土木業川口儀一（三二）は去る二日午後九時頃雇人樋口駒之介（三五）と仕事の事より口論を始め遂には駒之介の左臀部を拳を以て毆し且左耳及左頸部を拳を以て毆打し同時に左臀部を蹴り兩所共壓服せて擦過傷を負はしめたるを以て此程駒之介より告訴せられ龍山憲兵分隊より傷害罪として檢事局へ送らるる因に儀一は劍道柔道等の心得あるものにして無暗矢鱈に其秘法を應用して人を傷害するなりとは劍呑な不心得男と云ふべし

●塩田泥海と化す

去月二十七日午前十時頃廣梁灣鹽田工事第四區の外堤約十一、二間は風波の爲めに破壞せられ工區一圓に侵水して全く泥海と化したり土工請負者小林組は約二千の人夫を使役して防禦工事を急ぎつゝあるも未だ成功せず損害額は約八千圓なりと

●不良葡萄酒押收

此の頃鮮人及清人にして不良葡萄酒所謂僞造品を販賣する者多數ありと探知したる北部署に於ては之が押收に着手したるに製造元はロンドン商會として中部檜洞四十八統二戶趙源鎬商店にて中瓶十五本中部中林洞三十八統五戶並昌泰方にて中瓶十本大瓶七本樓洞四十六統六戶清國人天成永方大瓶四本卜麻洞三十五統七戶清人鴻泰公大瓶一本樓洞四十二統八戶鮮人金學淳方にて中瓶二本廟洞四十二統二戶鮮人馬照星方小瓶五本同洞十八統二戶金泰仁方大瓶六本を發見し尙は續々押收續行中なりと

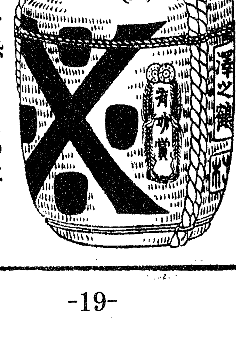
●起訴猶豫

大分縣人當時本町一丁目代書業小野万平熊本縣人當時西大門外山浦辰造の二名が共謀して私印私書僞造行使罪を犯し其の筋に檢擧され檢事局に送られしが伊藤檢事の寬大なる處置を以て起訴猶豫將來を訓戒せられ去月三十日放免となりたり



▲錢湯の中では随分奇警な語を聞くことがある「開放せられたる言論の自由」とは錢湯に於て初めて得らるゝ▲と申しても罪もない談話で御座るから浴客言論取締規則なぞを考へられては堪らん▲と是れも浴客論客の警句だ▲兎に角僕は教育家、宗教家、爲政者等は自家專門の浴曹に浸つて天下泰平を觀じて居ず市中の錢湯の片隅に新內でも唸つて他の片言隻句を味ふべしである▲と一つ偉がつて置いて玆に紹介する一齣は南門湯で小耳に狹んだ奴だ▲鐵道の役人が劍を下げてる鐵道規則違反の者があつたら斬るのだらうか夫れとも先年の伊院驛の燒擊に懲りての用心か何んだか知らんが今迄の如に短いのみでなく長いのも入用んだつて物騒だナアた一老人、不思議はない其の長い方はナ脫線した時コヂる梃子代りに使ふのだがナ▲乘客茫然たり（風聞子）▲圓滑洒落の小僧足下、松齡齢々として千代が壽く南山町は松園に甘党、酒党、上戶下戶の座右に侍る妙齡の鬼か、佛か什麼生（酒正）▲說破、鬼にあらず佛に非ずれつやさんと云ふ娘さんなり（小僧）▲大和町一丁目の基督敎青年會では美語と鮮語の教授をして居るが教師諸君は昨今暑い故か今少し責任を以て敎授されん事を吾人生徒は希望する（苦學生）▲臨時土地調查局測量科學徒張敵雨と云ふ者が全引淳なるものゝ宅に同居中弘淳の妻を盜み六月二十日に之れを殺すと脅迫したりと檄の投書を接したり津上加來山里六統某出にて到達したり借り疑斗る可らず（係）▲チー生君の投書憚りありて載せず悪敷からず（係）▲先日〇〇町の炭屋の小僧〇井が〇炭を胡魔化し賣上代金を取込んで知らぬ顔の牢兵衛と極め込んで居たがツイした事から露現してサン〳〵油を搾られたイヤと云ふ程擠られた時の顔つたらなかつた夫れにも懲りず此頃又何だか作職して居る如だが不心得な事だ（注告生）▲本町一丁目京阪支店事マカラン屋にて二十五錢にて扇子を買つた其後南大門通三丁目交番前某雜貨屋で十三錢で買つたと云ふ品と比較して高いのに驚いたと云ふ投書があつたが扇子や閙扇の審惡は門外漢には不明ちぬ不廉いもの必ず不廉からず安いもの安からざるの理は今を以て逆め斷ずべからずだ（小僧）





京畿道內務部長朝鮮總督府道事務官正五位勳四等中大路正雄病氣の爲め豫て朝鮮總督府醫院に於て加療中の處養生不相叶七月三日死去致候此段謹告候也
追而本月八日午後三時京畿道廳內官化堂に於て告別祭相營み候尙本葬儀は鄕里京都に於て執行可致候
明治四十四年七月四日
親戚總代 田中遜
友人 外波內藏吉
檜垣直右
佐竹義準
男爵 柳赫魯
藥師川常義
櫻井小一
佐治修三